

# 平和の大切さを 伝えるために

8月6日、令和5年平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校・義務教育学校の生徒代表8人と引率教諭1人、合わせて9人の平和使節団が参列しました。原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげ、原爆被害の恐ろしさを知るため、平和記念資料館などを見学しました。

また平和使節団は、9月10日にクラフトシビックホール土浦で行われた「人権と平和のつどい」で体験発表を行いました。

ここでは、平和使節団として参加した皆さんの平和への想いを紹介します。

☎総務課(☎内線2010)

土浦第二中学校  
稲垣 道大さん



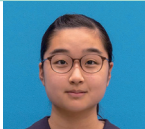
皆さんは爆心地から1.3kmの場所で被爆したアオギリの木をご存じですか。二度と葉をつけることはないと思われていたこの木が、その後再び葉をつけ種を飛ばし、多くの子孫を増やしました。それは、平和の象徴として各地に贈られたそうです。私は今回、平和使節団として平和記念式典に参加し、今なお青々と生きるアオギリを見て、私自身も平和の種子となり、世界に平和を訴えていきたいと思いました。

土浦第一中学校  
中山 莉奈さん



私は、広島平和使節団に参加し多くのことを学びました。平和記念資料館では、被爆者の苦しみを学び、同時に戦争や原爆の悲惨さについても知ることができました。真っ赤に焼けた衣服は特に印象に残り、日常で使う物さえも一瞬で奪い去る原爆の恐ろしさを強く感じ取れました。また、家族や友達を亡くして立ち尽くす人の写真を見て、身近な人と過ごせる平和の大切さが伝わりました。この経験を心に刻み、次世代に繋げたいです。

土浦第四中学校  
平井 美緒さん



8月6日、午前8時15分。私は原爆が投下された地、広島にいました。私が見た広島は緑豊かで活気あふれる街でした。しかし、平和記念資料館で見たのは悲惨な広島姿でした。私は原爆の恐ろしさと、今平和に暮らせているありがたさを感じました。「生き残ってくれてありがとう」、子ども代表の方が述べた言葉です。

今の暮らしがあるのは先人の努力があったからこそだということを胸に刻み、平和の尊さを発信していきたいと思います。

土浦第三中学校  
石塚 翠さん



私は今回実際に広島へ行き、見た物すべてが自分の想像していた悲惨さより、ずっと酷く痛ましいものでした。「核兵器廃絶」を実現するのは簡単ではありません。しかし、各国が核の恐ろしさを理解し、日本から常に核の恐ろしさを発信し続けていれば、いつの日か核保有国も心を動かされるのではないかと、訴え続けることが平和な日々につながるのではないかと思いました。まず、一人一人が平和について考えることが必要であると思いました。



土浦第五中学校  
古川 優さん



8月5日から3日間、平和使節団として広島を訪問しました。一発の原子爆弾によって、広島の人々の生活や大切な人を、一瞬にして奪ってしまったという事実を学びました。最初で最後の原爆投下にするために、平和な世界のために、戦争を経験していない私たちも広島で起きた悲劇を後世に伝えていくことが大切なのだ改めて思いました。

これ以上、悲しい思いをする人がいなくなるように、「世界平和」を強く望みます。



原爆ドームの前で▲



「人権と平和のつどい」での体験発表▲

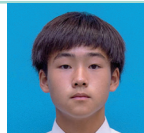


都和中学校  
降旗 はつひさん



私は平和使節団として広島を訪れ、戦争の恐ろしさを肌で感じました。展示されていた遺品は核の脅威を物語っていました。また、写真で残された当時の状況が、今もなお鮮明に残されており、現実を目の当たりにし、言葉を失いました。世界には、まだ核兵器を保有している国があります。平和な社会の実現には、他人事と思わず、一人一人が戦争と向き合うことが大切です。1日でも早く世界から核兵器が無くなることを願っています。

土浦第六中学校  
平賀 心太さん



「みなさんにとって『平和』とは何ですか」そんな問いかけから始まった平和への誓い。僕が思う平和とはみんなが当たり前前に生きていられることです。しかし、78年前、その平和は一瞬にして奪われてしまったのです。考えられないほど悲惨な光景が至る所に広がっている。そんなことは二度と繰り返してはいけない、伝え続けていかなくては。

さまざまなものを見て、聞いて、考えた、そんな3日間でした。

新治学園義務教育学校  
杉山 峻祥 教諭



平和使節団として広島を訪れ、平和記念式典に参加したり、平和記念資料館を見学したりしたことで、戦争の恐ろしさを改めて学びました。

原爆投下から78年が経ち、戦争経験がない人が多くなる時代へと移り変わってきています。少しでも次の世代に伝えられるように広島で起こったことなどをこれからも学んでいきたいと思えます。これからも世界が平和であり続けますように。

新治学園義務教育学校  
中久喜 愛瑠さん



「誰もが平和だと思える未来を」平和への誓いで代表のお二人はそう話しました。今回訪問した広島は「平和」によって美しく彩られ、78年前の傷を感じさせないほどでした。ですが、その裏には被爆者の方々の血の滲むような努力があります。この平和を絶やしてはなりません。二度とすべての人の幸福が脅かされることのないよう、精一杯できることをしていきます。そしていつか、今は夢のような未来が現実となることを願っています。

